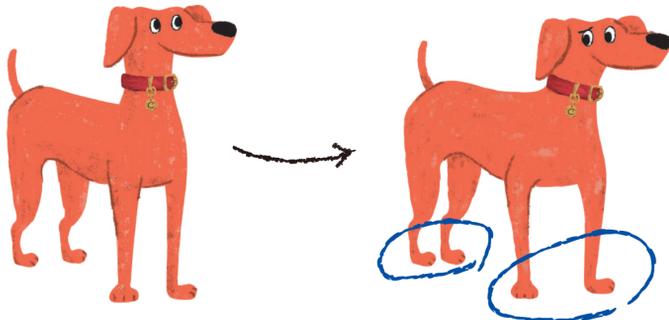




ぼくのちがいがわかったかな？ 以下で先生が解説してくれるよ！

東京大学大学院農学生命科学研究科
附属動物医療センター 外科系診療科
特任研究員 天野まど香先生 監修

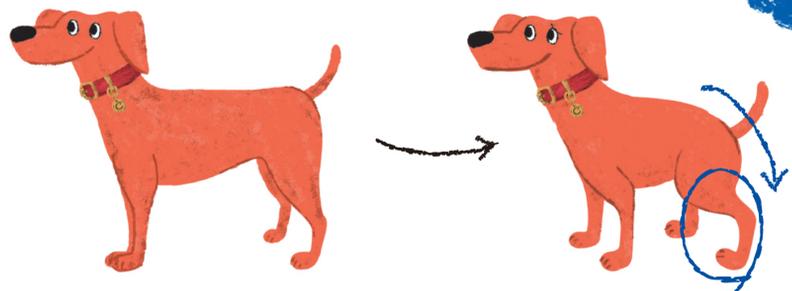
A



後ろあしの間隔が狭く、前あしの間隔が広がっています。股関節形成不全や前十字靭帯疾患など、両側の後ろあしに異常があるときに、後ろあしに体重をかけたくないため、からだの重心が前へ移動することで起こります。



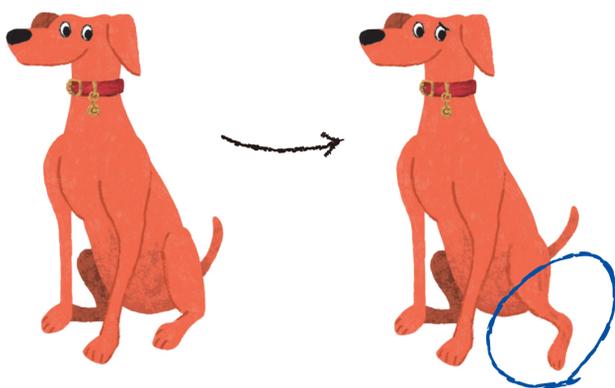
B



膝と背中が曲がり、お尻が地面と近くなっています。両側の膝蓋骨脱臼で見られることの多い姿勢で、動物の後ろから見ると膝とつま先が内側を向いていたり、ガニ股姿勢にも見えます。治療が必要かどうか獣医師とよく相談しましょう。



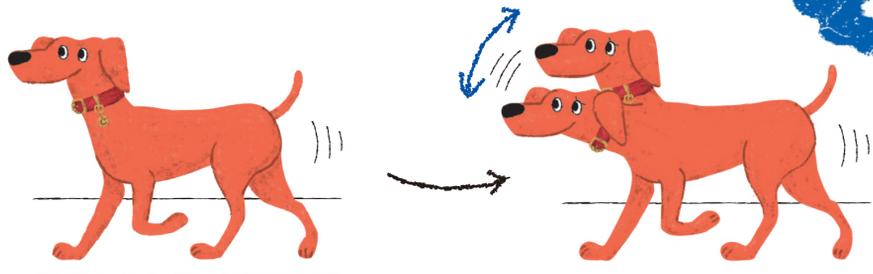
C



お座りした時に、左の後ろあしが横に流れています。前十字靭帯疾患などによって、膝の関節の中に水がたまって起こる姿勢です。膝を曲げづらくなるので、膝を伸ばしたまま足を横に投げ出して座ります。前十字靭帯疾患は早期の診断が重要で、レントゲンや超音波検査で異常が見つかった場合、手術が必要になることもあります。



D



歩いているときに、頭が上下に動いています。前あしが痛い時に起こる歩き方で、頭が上がったときに着地している足に異常があります。若い犬では肘関節異形成、高齢犬では腫瘍など、早期の診断が重要になる疾患の可能性もあります。病院で検査を受けましょう。

